

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101234
法人名	医療法人 恵光会
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原
所在地	福岡県福岡市南区柏原1丁目2-46
自己評価作成日	令和2年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	令和2年10月28日	評価結果確定日	令和2年12月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設への坂を上がり、門を入ると玄関先には、四季折々の花が咲き、今年も1階の名前の由来の「またたび」がたくさんの実をつけ、また「琵琶」も豊作で琵琶狩りを楽しみました。入居者様と「顔なじみ」「声なじみ」の関係をつくり、笑顔で居心地良く過ごして頂き、またご家族様へも行事に参加の声掛けし、コミュニケーションを心がけています。今年はコロナ禍のある中、1年前に退去されたご家族様からマスクの支援があり、スタッフ一同が温かい気持ちになり、日頃からコミュニケーションの大切さを再認識しました。施設から働きながら看護師免許・ヘルパー免許取得したスタッフもおり、スキルアップできる環境であります。また母体の原病院と医療連携が整っている為、ご家族様から安心の声を頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所入口には感染予防対策が施され、職員が一丸となって利用者の安全に配慮し、新型コロナウイルス対策に取り組んでいることが伺える。利用者一人ひとりの特徴や病状を全ての職員が把握できるよう、情報共有の方法にも工夫が見られ、母体の医療機関との連携体制を取りながら、利用者と家族が安心して最期のときを過ごせる事業所である。職員同士のコミュニケーションを図り、長年勤める職員から知識や技術を習得したり、お互いに連携しながら支援に取り組んだりして、職員の質やスキル向上にも努めている。実際に長年勤めている職員が多く、利用者の表情や仕草から不安に感じていないか等の思いを汲み取るなど、利用者との「なじみ」の関係を築き、実際の支援に反映させて、利用者にとってより良いサービスを提供できるよう取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念「地域住民の1人としてその人らしく暮らし続けられる事を支援します」を掲げている。	事業所の理念には「その人らしい生き方をして欲しい」との思いが込められている。会議等で支援内容について検討する際には、利用者のこれまで過ごしてきた時間やそれぞれの個性を尊重したサービスとなっているかを振り返り、理念を基にしたサービスの提供に繋げている。	事業所を取り巻く環境や働く職員も変わり、事業所理念の再考や事業所理念を基にしたユニットごとの目標を別途定めるなどして、今働く職員の目指す支援の方向性を明確化することで支援内容の更なる向上に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	選挙時に、希望があれば同行している、また校区運動会やイベントにも同行している。	運動会等の地域行事に積極的に参加し、地域と交流を図ってきたが、新型コロナウイルスの影響を受け、行事が中止となったため、地域住民と交流する機会は減ってしまっている。散歩中に挨拶を交わしたり、野菜のおすそ分けをしたりして、日常的な交流から地域とのつながりを保ち続けられるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議や家族会では、テーマを決め勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、行事報告等をしている。いきいきセンターの方に参加して頂き、意見を聞いている、また地域の方と意見交換している。	町内会や民生委員などの地域住民、利用者家族、いきいきセンター職員が参加し、事業所の現状報告や情報交換を行っている。いきいきセンター職員の参加により、地域の情報をさらに知る機会ができ、得た情報は職員や利用者家族にも周知して、サービス向上への取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の案内状を送り、来所が出来ないときは議事録を送るなどしている。(今回地域推進会議は、3月5月はコロナの為開催できず)	事業所の現状を知ってもらうために、取り組んでいる内容や行事の様子などを分かりやすくまとめ、行政担当者に報告している。報告時は直接窓口へ出向くようにして、相談しやすい関係を築けるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在1名身体拘束を行っているが、身体拘束をしない時間を設ける取組をおこなっている。	やむを得ない事情により、身体拘束を行っている利用者については、利用者の状況を見ながら時間を短くするなどして、拘束をしないケアを実践できないか、検討を続けている。職員は身体拘束をしないケアの重要性を十分理解した上で、不必要な拘束とならないよう理学療法士から助言や指導を受けながら、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナの為、外部研修が開催されていないが8月11日の研修に参加、報告している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	説明資料を準備し、契約時説明するとともに、必要時には支援できるようにしている。外部内部の研修会を通して情報の活用をしている。現在1名成年後見制度を利用をしている。	外部研修への参加や内部研修のプログラムとして盛り込むなどして、権利擁護に関する制度への理解を深める機会を設けている。相談時に多くの職員が対応できるように知識の更なる習得に向けて、勉強会の開催も検討するなど、利用者が必要とする制度を迅速に活用するための体制整備に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明同意をいただいている、変更時も説明同意をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に常に尋ねている、又声のポストを設置している。ケアプランに関しては近況、要望の手紙を出している。家族会を年2回開催し、意見交換している。	意見交換の場として、家族の会を年2回開催していたが、感染症の影響もあり、開催中止となっている。家族には手紙や電話などで現状報告する際に、意見を尋ねたり、直接は言いづらい意見などは声のポストを設置して案内をしたりして、意見の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内研修会や、フロアーミーティング行い、職員の意見を聞いている。又、業務改善等の提案書がある。	職員の自己評価を年3回実施し、その内容を基に面談を行う中で意見や提案も一緒に聞いている。実際に職員からの業務改善等に関する提案書を受け、業務の一部を見直すなどして、職員のゆとりが生まれ、支援に携わる時間を充実させることができている。	現在の取り組みを継続し、管理者と職員がコミュニケーションを密に図り、提案を言い出しやすい環境の更なる発展に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を年3回実施し確認している。常に声掛けをし相談にのっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人全体で、募集採用しているが、年齢や性別等の条件はない。採用は利用者のかかわりの中で、職員の特技や趣味を日頃の業務の中で活かせるようにしている。再雇用も行っている。	職員の年齢層は20代から70代まで幅広く、定年後も働く意欲があれば再雇用して、培ってきた知識や技術を活かしている。職員の日頃の様子に目を配り、時には有給休暇の取得を促すなどして、リフレッシュする機会の確保にも努めている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	南区内、校区内の外部人権研修会に参加し、スタッフの報告を聞いて共有している。	外部研修会に参加し、参加できなかった職員にも伝達講習を行うなどして、人権教育に取り組んでいる。排泄介助の際には扉を閉めるといった基本的なことから、利用者それぞれのペースに合わせた行動を心掛けるなど、利用者の人格を尊重した支援を実践している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為の外部研修の希望があれば、参加、報告しスタッフに反映共有している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週末に系列施設との情報交換を行っている。法人の介護系勉強会に参加している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に面会し、初期アセスメントを作成するにあたり、ご本人、ご家族の希望を元に支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご本人、ご家族の希望をきき、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族各担当者と話し合い、連携を取り対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	第2の家族のように方言等を遣いコミュニケーションを図り、関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時、その都度状況説明し、対応に困った時などは昔の話を聞き介護に反映している。イベント時は参加を促し、ご本人と一緒に写真を撮り、お渡ししている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高校時代の友人の訪問があったりすることもある。	地域の感染状況を見ながら、外出や訪問の制限についても臨機応変に対応している。制限のある中でも、馴染みの人と交流する場を設け、帰る際にはまた訪問しやすいように「またお越しください」と声をかけてお見送りをするなど、関係性を継続できるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでTVを見たり、カラオケ等で交流している。入居者様同士、声をかけたりお世話をしようとする。ホールの席も配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた時は、職員でお参りに行っている。その後も家族の方とつながりがある、また一周忌にはお花を贈っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン変更時はご本人、ご家族の希望を聞き取りし、意向の把握に努めている。	利用者一人ひとりに向き合い、寄り添いながらご本人の希望や意向の把握に努めている。思いを表に出すことが難しい場合にも声かけの内容を工夫し、複数の職員で対応したり、表情を読み取ったりして、利用者の今の思いを把握することを重視している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に聞き取りをしている。アセスメント、モニタリングで確認、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護の中で、現状を確認しミーティングで把握し共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、問題が発生した場合はケアカンファを行っている。	定期的にモニタリングを行い、利用者が今必要としているサービス、より良く暮らすためのサービスについて職員等の関係者と話し合っている。訪問制限を設けていたときは、家族への報告を密に行い、現状についての情報を共有し、利用者の抱える課題について共通理解を図れるよう工夫していた。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテがあり、介護時の問題点や、日々の状況を記録しケアカンファで情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付添や入居者様が入院された場合等、ご家族の方と相談し対応している。訪問マッサージを利用している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容を再開。どんたくや敬老祭にボランティアに参加してもらっている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診（他科）の同行をしている。訪問診療（往診）を受けている。家族の希望時は外部からの訪問診療も受けている	利用者や家族の希望を尊重し、かかりつけ医への定期受診の同行支援、訪問診療の受け入れ体制を整備している。母体である医療機関とも連携し、情報提供書を作成するなどして、利用者が必要とする医療を適切に受けられるよう情報共有にも努めている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3名の看護師がおり、状態に変化があれば報告必要に応じ受診している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、主治医担当部署の看護師やMSWと情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作り、必要に応じ本人家族に説明し、家族と同意書を交わしている。ホームの看取り介護に関して、職員も周知しておりホーム全体で方針を共有している。	重度化された場合の過ごし方について、利用者や家族の思いを関係者を交えながら話し合う機会を設けている。状況が変化した場合には、必要に応じて話し合いを重ね、母体医療機関とも協力しながら、看取り介護にも取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のホーム内研修会で、事故発生時はヒヤリハットを報告検討し、職員全員で共有し、実践力を身につけている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練及び消防訓練を行い（消防署員の立ち合い有）地域推進委員会で非常時に備え協力を依頼している。最終避難場所を唱和している。	火災や風水害を想定し、避難誘導や土嚢設置の方法について訓練を実施している。避難訓練後には問題点を話し合い、改善策等の情報を共有していくことで、利用者が安全に避難できる体制作りを努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に、その人らしくと掲げ人格を尊重した態度で接するように心がけ、介助中のプライバシーを守っている。	事業所理念にも「その人らしく」暮らすことの大切さを掲げており、職員はこれから行う介助内容が利用者の羞恥心等を刺激するものか、よく考えながら、一人ひとりの人格を尊重した態度や行動を心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物を尋ねメニューにとりいれている。外出時も食事やおやつメニューを尋ねている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も、体調やペースに合わせ無理強いないせず、食事や睡眠時間を考慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな洋服を着ていただいている。起床時に整容していただいているが、介助が必要な方にはホットタオル等を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は外注で対応し、朝夕食は施設で調理している。イベント時はバイキング形式と採り入れ好みのものを選ぶようにする等している。その他食事の後片付けを一緒にしている。	利用者の食べたいものを尋ねてメニューに取り入れるなどして、楽しみながら食事ができる環境作りに努めている。トレー拭き等の片付けを職員と利用者が一緒にしたりして、利用者の力を活かせる場となるよう工夫している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活パターンシートを作成し、食事量や水分量を記入し、嚥下が困難な方はミキサー・とろみ食にて提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時毎食後口腔ケアし、観察をしている。必要に応じてマウスウォッシュを使用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、個々に合うケアを行っている。	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、チェックシートを活用して職員間の情報共有を図っている。排泄の失敗に対して不安感を抱かないように、声かけの方法やタイミングには特に気を配っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便のチェックを行いDr.の指示で下剤を調整している。野菜を多く取り入れたメニューを考案したり、乳製品・オリゴ糖・おからパウダーを提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に応じて対応している。 週2回入浴している	週2回の入浴支援を基本としているが、利用者からの希望があった場合等には臨機応変に対応している。入浴中に歌を唄ったり、職員と会話をしたりして、利用者が本人のペースで入浴ができるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠を確認し、夜勤者が申し送りをしている。昼夜逆転の方もおられ睡眠導入剤を処方されることもある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬の説明書にて把握している。与薬時はダブルチェックにて内服するまで確認する。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の家族より情報を聞き取り、ケアに生かしている。家事の中で茶碗拭きや洗濯物たたみが得意な方が多く一緒に行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期受診の帰りに、昔住んでいた近くを通るなどドライブをしている。	コロナウイルスの影響を考慮し、外出の制限を設けているため、行事などでの遠出は難しい状況である。事業所の近所を散歩したり、テラスで日光浴をしたりして、利用者が気分転換できるよう工夫している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期受診時に、病院の売店にて買い物支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、かかってきた場合は取り次いでいる。節目節目で家族の方から荷物の受け取りの支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を飾っている。毎月壁飾りを入居者様と作成している。	共有空間の壁には利用者と一緒に飾った壁飾りがあり、外出が難しい状況でも季節を身近に感じる事ができ、会話のきっかけにもなっている。利用者の居室からの導線を考えながら、テーブルなどの大きな家具は設置されており、利用者が落ち着いて過ごせるよう配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに入居者様同士が語らえる場所(座席)の配慮している。希望時は自室で過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していた、家具やソファ、写真飾り物など持ってきていただいている。本人が居心地よく過ごせるように配慮している。	長年自宅で使っていた整理タンスやソファ、お気に入りの写真や飾り物を持ち参し、自宅と同じ雰囲気を感じてもらい居心地良く過せるよう配慮してある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、また廊下やトイレに手すりを設置、個々の残存機能を生かした支援をしている。トイレや洗面所が分かるように大きく表示している。		